

平成29年度 鹿島市まち・ひと・しごと創生会議 会議録

平成 29 年 8 月 31 日(木) 15:00～17:00

鹿島市役所5階大会議室

○報告

代理出席 佐賀県 西方珠美 ⇒ 池松友和

欠席 なし

①委嘱状交付

高松委員(老連)へ市長から交付

②市長挨拶

平成27年10月にまち・ひと・しごと総合戦略を策定して、今年で3年目を迎える。市では、現在、国の地方創生拠点整備交付金を活用して、肥前浜宿に「お試し移住施設」の整備を行っている。また、7月には地域おこし協力隊を採用し、肥前浜宿の情報発信の強化を目標に活動をしてもらっている。さらに、県主体で、肥前浜駅のリニューアルに県と一緒に検討しながら取り組んでいる。

肥前浜宿以外では、ドラマの舞台となった「道の駅鹿島」の整備に着手しており、新たに干潟交流館を建設予定。

また、祐徳門前を中心に、下水道整備と地域活性化を一体的に取り組むモデル事業に着手する。

「肥前浜宿」、「祐徳門前」、「道の駅」これら3つを点ではなく面で捉え、一体的なものとして事業を進めている。

このほか、子育て世代向けの市営住宅を、PFI 事業で建設予定。

本日は、昨年度の取組みに対しての評価・検証を行っていただくことになっており、忌憚ないご意見をいただきたい。

③委員及び市出席者の紹介

事務局より名簿に従い紹介

④会長・副会長

会長に中村雄一郎委員(観光協会)、副会長に中川宏委員(商工会)を選出

⑤鹿島市観光プロモーション事業(地方創生加速化交付金)の効果・検証について

資料1及びプロジェクターにより事務局説明(省略)

●意見交換・質疑応答

【山口委員(公募)】

もし、この事業をやらなかったらどうだったか、やった場合としなかった場合の差異が評価ではないか。この数値を出すためには、毎年この金額を必要とする。この点はどうか。

《事務局》

当初値から実績値が増え、目標値を上回ったことで、一定程度の効果が合ったものと判断している。例えば、広告料はそのときだけのものではあるが、アンケート結果で口コミがきっかけで鹿島を訪れた人が多かったように、広告を見て観光に来た人から口コミで広がっていき、今後さらに観光客が増えるということにもなる。また、アンケート調査も、実施時点で効果があるものではなく、今後この結果を観光施策に役立てることで、さらに観光客が増えると考え

る。

《事務局》

地方創生加速化交付金の特徴は、その前のプレミアム商品券などに取り組んだ地方創生先行型交付金を加速化するというもので、先駆性を高めレベルアップを図ることを求められ、それに沿った取組みが採択をされた。これがスタートであり、その後持続的に取り組めるような、呼び水的な意味があったと思う。今後、これをレベルアップさせ、継続していくことが必要と考える。

【山口委員(公募)】

そうなるように期待する。ただ、アンケート結果を見ていて、鹿島の印象は特になく、不満もないなどの回答が7割、5割と高かった。例えば、富士山では、次は白い雪をかぶった富士山が見たい、別の姿の富士山が見たいという観光客からの意見が出ると思う。これは、鹿島の印象を与えられなかったということではないかと思う。お金をかけなくても、もっと鹿島のいい点をアピールする施策を考える必要があると思う。

《商工観光課》

市観光協会、商工会議所、県観光連盟、JR九州などに参加いただいて観光戦略会議を月1回開催し、これからの鹿島の観光について、どういう方向に持っていくか戦略を考えており、今回の交付金の成果をそこに落とし込んで、今後の観光につなげたい。

【高松委員(老連)】

祐徳神社へお参りする人は増えている。神社に見直してもらいたいことがあるが、この場に権宮司を呼んでももらえないか。

《市長》

今の話にはバックグラウンドがあり、山口委員が言われた観光客の問題は、古くて新しい問題。神社周辺に食べ物がない、宿泊施設がないと以前から言われている。市で宿泊施設をつくるのは難しいので、せめて鹿島の食事として何かできないか、レシピをつくっている。

門前と神社の関係は難しい。一番は駐車場の問題で、上の駐車場に観光バスを駐車したら、観光客が門前に来ない。本来は、商売の話であり、神社と門前で相談したらよいというのが答えだが、なかなか言えない。最近では海外からの観光客も多く、商店の方も努力されている。神社も色々な場面で話し合いに入ってもらっているが、市が門前との間に入っているいろいろな言える立場にない。このような話が出たということは伝えたい。

地元古枝の大庭委員さん、どうですか。

【大庭委員(区長会)】

古枝は、浜のように活発ではない。門前は門前で考えられているようだが、話は降りてこない。お互い話がきちんとはできていない状況。

【高松委員(老連)】

駐車場の問題は解消してもらいたい。

【中川委員(商工会)】

今、門前商店街も、商工観光課の職員も一緒にがんばっておられる。商工会議所も、神社に来るのではなく商店を目的に来てもらえるような仕掛けをしてもらおう働きかけている。嫌がられるが、行き続けたい。
質問だが、アンケートはどこでとられたものか。

《商工観光課》

祐徳神社一円の観光客に聞き取り調査を行った。

【中川委員(商工会)】

神社だけでなく、浜や干潟体験にも広げたら、結果は違っていたかもしれない。

【坂本委員(フォーラム)】

アンケートの国別の回答状況を教えて欲しい。また、ドラマの効果でタイ人が多いといわれているが、いつまでも続かない。これからタイに向けてPRする計画はあるか。

《商工観光課》

アンケートの回答は、全部で217人(男94人・女110人・無回答13人)、中国58人で26.7%、タイ24.9%、台湾17.1%となっている。「ガタの国から」が7月放送され、道の駅鹿島への影響はあまりないとのことだが、棚ジブを利用したいという外国人観光客が多く、今受入を断っている状況とのこと。

海外へのプロモーションについて、今年度は台湾、タイ、上海を予定しており、タイには来月、県観光連盟と県内市町、県内のホテル関係者と一緒に行く。

【小部委員(記者)】

平成32年3月時点の目標をすでに達成したものが2つあるが、目標の変更を考えられているか。

《事務局》

これは国への申請時点で設定した目標で、変更することはしない。引き続き、平成32年3月まで、目標を達成できるよう継続していく努力が必要と考えている。

【松尾委員(文連)】

私も神社の駐車場は上に停める。下から歩くには時間がかかるし、同じような道が続いており面白くない。ゲゲゲの鬼太郎の里では、面白い彫刻が並んでいる。参道にも、面白いと思えるものがあれば、歩きたいと思うのではないか。

《市長》

境港のことだと思う。今、地元を中心に考えておられるのは、着物を着て歩きましょうということ。一番人気は、カップルで着物を着て、写真をとることだそうで、非日常を求めているということには応えている。このようなことを提供できたらいい。フォーラムやJCで、ガタリンピックの次に広がるようなアイデアを出してもらいたい。

【中村会長(観光協会)】

この事業は、観光協会も一緒にやってきた。観光ポスターは、有名な写真家をお願いしており、一枚一枚を見ると

アレッという感覚だったが、6枚並べると鹿島のイメージがわいて、とても評判のいいものが出来上がった。

また、観光案内所を開設してわかったことだが、こんなに外国人が鹿島を訪れているのかという思いで対応している。協会としては、市の観光に大いに役立ったと思っている。

⑥鹿島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の目標達成状況の検証について

資料1及び資料2により事務局説明(省略)

地域おこし協力隊の酒井さんを紹介

【大庭委員(区長会)】

防災について、区長会のなかで議論になるが、いろいろな設備が出来上がり、次は本当に支援が必要な人をどう避難させるか、避難訓練をしなければいけないという話をしている。しかし、個人情報保護のため、民生委員が持っている情報の共有化が進んでいない。

また、耐震について、避難所となる学校は進んでいるが、地区公民館は大丈夫か。東部中は大丈夫だが、後はどうかわからないということでは、区民に伝えられない。耐震化が済んでいるところ、まだのところなど情報が欲しい。

《総務課》

毎年6月の市報で指定避難所の広報を行っており、そのなかで、地震、大雨、津波など災害の種類に応じた施設があることも伝えている。

実際災害が起きたとき、高齢者などを避難誘導することが、区長や民生委員の心配するところと思う。自主防災組織は90%以上の地区で組織されている。命を守ることは個人情報保護より大事だという判断が出ているので、市では要援護者の把握をして、万が一のときは地区へ情報提供できる体制を整備したいと考えている。

【福田委員(ハローワーク)】

企業誘致で平成29年度に川島金属が進出されることが決定し、ハローワークにも求人が出ている。地域内に製造業が少ないなか、川島金属の進出に我々も期待している。一方で、地場産業の育成も必要であり、地域の求人倍率は1倍台と、人手不足感があがっている。賃金など条件面も重要だが、企業の魅力が地域の方に伝わっていない。ハローワークでも企業を集めて、事業所PR会を月1回行っており、毎回10人程度の参加がある。こういう企業もあったのかなど関心をもたれている。地元企業の魅力を発信する取組みを、自治体で先頭に立ってやってもらえないか。ハローワークには登録者約1,200人、鹿島市民で約500人いるので、市の取組みを発信していく。人手不足の解消にもつながると思う。

《商工観光課》

市内企業の紹介については、一昨年に企業ガイドを作成し、近隣の高校に配布している。今後は、求職者や地元企業のことを知らない人に対しても、商工会議所と連携して取り組みたい。ハローワークとは、情報交換会を開催しており、その中で取組み方を話し合っていきたい。

【中川委員(商工会)】

この会議に出席して2年目になるが、1年目に総合戦略の11ページや13ページ(年齢階級別の人口移動の状況)を見て、何とかしないといけないと考えていたところ。東亜工機や森鉄工を知らない市民、子どもがいるという現実を知り、事業所の魅力を発信する必要があるということで、先ほど紹介があった企業ガイドを作成し、高校に配布した。現在、このことについて、高校生に意見を聞いているところで、その結果を何かの形で表現できないか考えている。

また、ふれあい事業として、企業の持つ技術を子どもたちに知ってもらう取組みを去年から始めた。インターンシップや就職説明会をハローワークと一緒にを行う予定にしており、市とも協力して事業所を回りたいと思っている。

《納塚理事》

7月に着任して、市内の関係者20数箇所にあいさつに回る中で、ほとんどの方が若者の流出に危機感をお持ちだった。高校再編も控えているとのことで、高校の校長とも会い、若者の流出を止めるため人口減少について高校で講演をさせてもらえないかお願いしたところ、すでに塩田、実高、白石の3校での講演が決定している。意外と地元企業の良さ、すばらしさ、ひいては鹿島のよさを知らないの、そういったことも話してほしいと言われている。すぐには効果が出るものではないが、継続することでUIターンにつなげたい。

【重松委員(鹿島実業)】

先ほどから、地場産業の話などがあがっているが、生徒も知らないし教員も知らないのが現状。そこで、3年生の授業の課題研究のなかで、昨年度から商業課を4つのグループに分けてプレゼンテーションをしている。この目的の1つは、自分たちを売り込むための表現や話し方を学ぶこと、もう1つは鹿島に特化したプレゼンをつくること。グループの1つは商品開発に取り組み、市産業支援課や海道しるべ、道の駅、JAビバレッジの協力を受けて商品をつくり、販売している。

いつも思うことだが、生徒と市民の方とコミュニケーションを取れる場をつくるのが一番。一回会って話すと親近感が沸き、それまでと感覚が変わってくる。今年のプレゼンで酒蔵ツーリズムに取り組んだが、まず各酒蔵に行き、こんなことをしているんだ、こんな評価を受けているんだということを知ったことで、大きく感覚が変わった。学校としても市民の皆さんと関わっていき、10年、20年後に市に定着する生徒をつくりたい。特に商業課は半分以上が外に出て体験することが勉強と思うので、市、商工会、JCなどに関わり、鹿島で育ち、鹿島のためになる人材を育てたいと思っている。

【中村会長(観光協会)】

実高のプレゼンは賞をもらっている。商工観光課で、会議の場などで高校生のプレゼンを披露できないか考えていただきたい。

《市長》

若者はどうしてふるさとを出るかということは、全国的に大きなテーマになっている。一番の理由は、ふるさとのことを知らないこと。2番目は、ほとんどの情報が東京を中心に氾濫していること。3つ目は、単身で都市部へ出て行くが、将来の結婚や親の介護のことには関心がないこと。今の重松委員の話は、ふるさとのことを知らないという典型的なものだったと思う。高校生に対しても必要なことでしっかりやってもらいたいが、一番初めは小学生からやらないといけない。今お願いしているのは、小学校の生徒にふるさとのことを教えること。そのためには、先生から始めないといけない。先生には鹿島出身でない人もいるが、ぜひ子どもたちが自分のふるさとに興味を持つような環境づくりをして欲しい。ラムサールでは、鹿島の川の上流まで登ったり、鹿城川や嶽水道をたどったり、子どもたちなりにできることもある。また、市の幹部職員で、東亜工機、森鉄工、リクシルなどを回るツアーを行っている。皆でやろうという素地をつくりたい。

【山口委員(公募)】

現在市内では、医療・福祉関係で働いている方がかなりの人数いると思うが、この人たちを政策の対象とすべきではなかったか。

基本戦略1について、新規就農者を増やすことは難しい。それより、農業者の高齢化への対応として、法人化、集落営農がある。法人化すれば、全くの素人の青年が働く場にもなりえる。そうして経験を伝えていく。現行のままの新規就農者対策では、なかなか目標を達成できないだろうし、若者に夢を与えられないと思う。当然将来のことを考えると、収入の確保も必要で、それを保障できるかという問題もある。根本的にやり方を変えないといけないと思う。

米政策について、収益性の高い作物の情報を提供するなど、農家に期待するだけでなく、むしろ市で引っ張っていくことが必要ではないか。

基本戦略3のブランド化について、手間隙をかけてやるのはいいが、成功したらすぐ人が真似るため長続きしない。金をかけて高く物売るより、低コストで手間をかけずにすむほうが若い人にはとつきやすい。収益性をあげるという目標は同じで、手間をかけない分、時間を規模拡大にかけることができる。ブランド化だけでなく、そういう方策を考えるのも必要ではないか。

《農林水産課》

日本の農業の問題点を集約した貴重な意見だと思う。

新規就農者対策や農業者の高齢化対策として法人化を目指すべきであるということだが、現在の新規就農者の状況は、H27で13人、H28で5人、H29で6人と皆さんがんばっておられる。一方、高齢化社会の構造的な問題を反映して、集落営農が18組織、法人化が2組織ある。集落営農の法人化を、JAと一緒に進めているところ。

米政策について、現在夢しずくから収益性の高い佐賀びよりに変える政策を行っている。転作は米に頼らないという政策だが、中山間地域で裏作が進まない状況にある一方で、古枝地区は玉ねぎが増えている。乾田化が進めば裏作も進むと考える。早ノ瀬地区ではサフラン栽培が行われており、特産化していこうという動きもある。

ブランド化について、県や市の補助により初期投資を抑えながら、根域制限栽培で高糖度のみかんをつくられている。現在、5ヘクタール以上増えており、ブランド化を確立でき、後継者もできている。地道だが、市内の農業従事者が増えるように、何より稼げる農業、持続型農業を支援していく。

【中村会長】

ありがとうございました。時間となったので、これで協議を閉めさせていただきます。

その他で、県から連絡があるとのこと。

(池松委員から、全国過疎問題シンポジウム2017のPR)

【中村会長】

本日は長時間にわたり、ご協力ありがとうございました。

なお、計画期間、平成31年度までの事業評価が必要になるので、必要に応じて来年度以降も開催する。その際には、また委員の皆様をお願いすることになるかと思うので、よろしくお願ひしたい。

また、市では、国や県に合わせて、男女共同参画基本計画を策定したなかで、平成31年度までに今回のような会議において、30%以上女性委員にご参加していただくことを目標にしている。可能な団体には、女性の委員の推薦も検討いただきたい。

以上で、「平成29年度 鹿島市まち・ひと・しごと創生会議」を終了する。

(終了)